

## 留学報告書 ～アメリカでの生活～

カゼノビア大学  
外国語学部生（中期）

私の留学生活はコロナウイルスによる二年の延期を経て 2022 年の 8 月 16 日に始まりました。留学先はアメリカのニューヨーク州、ニューヨークのマンハッタン地域から飛行機で一時間ほどにあるシラキユース空港から車で約 40 分走らせた小さな町にあるカゼノビア大学でした。ニューヨーク州はアメリカの北東部地域に位置する州で、日本からは飛行機で 13 時間かかるとても遠い場所です。私が留学に行く前に想像していたニューヨークとは程遠く自然が豊かで静かな場所に大学はありました。



8 月 17 日、シラキユース空港に着いたのは深夜ごろでした。カゼノビア大学の職員の方々にバンで大学の寮まで送ってもらいすぐにコロナウイルスの検査やその他手続きを行いました。その後 RA(Residence Assistant)が私たちをそれぞれの寮へと連れて行ってくれました。深夜 0 時を回っているのにもかかわらず寮の案内や説明を丁寧にしてくれた RA の生徒たちには感謝していますし、とても安心したことを覚えています。私は名古屋学院大学から来た二人の学生とルームメイトになり数少ない 3 人部屋で過ごすことになりました。

大学に到着して次の日は休暇中だったのですが、名古屋学院大学の学生と大学周辺を探索したり、学生証を作りに行ったりとあまり時差ボケせず動き回りました。大学周辺にはお店はあまりなくスーパーマーケットに行くのには歩いて20分はかかりましたが、大きな湖がありました。私たちが大学についた日はまだほかの生徒たちは大学に戻っていませんでしたので静かでしたが、環境や英語にならすのにちょうどいい期間だったと思います。休暇を終えると、留学生担当のアドバイザーが私たちを買い物に連れて行ってくれました。日本から持って行かなかった洗剤やベッド用品、水など生活に必要なものはこの日の買い物で十分に揃えられました。買い物をするのはこの日が初めてだったので、物価の高さを思い知りました。

秋学期が始まると自己紹介や授業の概要説明がそれぞれの授業で始まりました。私は必修のアメリカ文化のほかにクラフトブック（アートクラス）、映画分析、コミュニケーションの授業を履修しました。それぞれ週に各2、3回授業がありました。その他に私は日本語の授業にも参加させていただいていました。昨年、名古屋学院大学の留学生とつながりのある教授が日本語のクラスを教えていたので私たちを招待してくれました。日本語のクラスで私たちはサポート役として出席し、スピーキングの練習をしたり、文化を教えたり、テキストの丸付けをしたりしました。日本語を教える際英語で説明する必要があったため英語の特訓にもなりました。日本に興味のある学生が履修しているなのでこの授業にいた生徒とはすぐに仲良くなりました。私の場合日本語クラス以外で同じ授業を履修している生徒がいたので、その学生とは他の授業も一緒に受けたり、食事をしたりすることもありました。日本語クラスはボランティアのようなものだったので留学生全員がいたわけでもなく自由参加だったのですが、私にとって日本語クラスは留学を彩らせたとても良い機会の一つでした。

カゼノビア大学はアートに強い大学だったこともありクラフトブックのクラスを履修しました。アートクラスは基本的に2時間以上のクラスが多く、また作品提出やプレゼンテーション、評論会が毎週のようにあったのでとても印象に残っています。過ごす時間が多いことや、フィールドトリップと一緒に作業すること多いことからこのクラスの教授や生徒たちとは他のクラスに比べて多くかかわり、仲良くしてもらいました。アートは言葉が違って共有できる場所が多いので、あまり現地の学生との差を感じませんでした。

私が履修した授業の中で最も苦労したのはコミュニケーションの授業でした。理由は、唯一試験が定期的にあるクラスだったからです。膨大なページ数の教科書たちやニュース記事、映画を勉強し現地の学生と同じ条件で試験を受けていたので、試験対策にはとても時間を要しました。同じテストを受けられる嬉しさと大変さが混合していました。

アメリカ文化のクラスの教授には留学生全員が一番お世話になりました。英語学習やアメリカの文化について学ぶクラスで一人を除いて名古屋学院大学の学生だったのでペースを合わせて授業を進めてくださいました。クラス外でもサンクスギビングを教授の家で体験させてもらい、教授の子供たちとの交流もさせてもらいました。子供たちとは個人的にとっても仲良くなったのでお別れはとても悲しかったです。映画分析は毎週課題のあるク

ラスで、教授が日本人留学生をととても気にかけてくれる授業でした。最終課題は計 10 ページを超える大変なレポート課題でしたがリスニングやライティング力が一番身に付けられたクラスでとても大好きな授業でした。私の履修していたクラスは授業形態がどれもバラバラでいろいろな体験をできました。また、どの教授も生徒思いで尊敬できる優しい方ばかりで講義最終日にはどの教授とのお別れも涙が出ました。



留学生活中私は何度か旅行に行きました。フロリダ、ニューオリンズとニューヨークシティーに何度か行きました。どの旅にもハプニングはつきもので、飛行機が遅延することは当たり前、ホテルが当日キャンセルされ電話をたくさん掛け、空港ではカスタマーセンターとお友達状態でした。ですが、どの旅行も人生で一番幸せだと感じるほど素敵な体験で、英語力アップの要因になりました。もちろんお金は沢山かかりましたがもっと行けばよかったと思ってしまうほど楽しかった思い出です。

旅行のほかにシラキュースにもよく出かけました。シラキュースにはニューヨークで一番大きなショッピングモールやアジアンマーケットなどがありました。電車やバスはカゼノビアになかったのでタクシーを使って出かけました。日本語クラスのつながりで私は特にシラキュース大学によく行きました。アメリカのなかでも大きな大学でスポーツが強い大学だったのでシラキュース大学でできた日本人の友人たちとスポーツ観戦や13人ほどのホームパーティーに参加していました。他大学の日本人学生と知り合うことができたことは想定外でしたが、留学中の思い出のトップ3に入ると言ってもいいほどいい思い出を作ることができました。



留学中の一番の思い出はチアクラブでの活動です。入学してすぐのクラブ説明会で惹かれ、トライアウトを経てチアクラブに所属した私は週三回の練習を授業後にする生活をしていました。経験もなく完璧な英語を話すこともできない私をチームメイトはたくさん助けてくれました。クラブ内でハロウィンパーティーや映画パーティー、勉強会など様々なイベントをし、バスケットボールの試合では毎試合応援を、学校のイベントでは発表をしました。クラブ内での揉め事や失敗、反省会など楽しいこと以外も経験し、友達を超えた関係を得られたこの経験は私の中で間違いなく一番の思い出です。帰国前に送別会を開いてくれたチームメイトには感謝してもしきれません。



私の中学生からの目標であり夢だった留学は想像通り夢のように楽しくて、濃い時間でした。アメリカから帰る際帰りたくないと思っただけほどだとは思いませんでしたが、人生でこんな素敵な経験ができてとても幸せに思います。ただの思い出ではなくこれからの卒業後の人生において経験を生かせるように、無駄にしないようにしていきたいです。

